

痔のはなし

2



不二越病院 外科部長
(外科学会指導医)
医学博士
山本 克弥

痔の知識と正しい治療・予防法について、前号に引き続きご説明します。今回は痔核(いぼ痔)、内痔核などを取り上げましたが、今回は外痔核、裂肛(きれ痔)、痔瘻の話です。

外痔核にしよう

外痔核の原因と症状

外痔核は、いきみや疲れなどで生じる肛門皮下の静脈のうっ血による血栓(血の塊)と浮腫(たんこ

ぶ)です。歯状線より下の部分にできますので強い痛みを伴います。指で硬いしこりとして触れることができます。

外痔核の治療

外痔核は何も治療しなくても自然に治る病気で、お酒、刺激物をやめ、ゆっくりお風呂に入り、安静にしていると案になります。血栓形成が強い場合、それを取り除く手術を外来で行います。もちろん薬を使うと早く案になります。

裂肛(きれ痔)にしよう

裂肛の原因と症状

裂肛とは、太くて固くなった便が無理に通過したために、肛門の出口付近が切れて起こる痔です。症状としては排便時に紙につく程度の出血と痛みがあります。裂肛になると、排便時に痛むため、トイレをがまんしてますます便が硬くなり、悪化

裂肛の治療

単に硬い便で切れた裂肛は、便のコントロールと薬物治療で治すことができます。しかし、慢性化し、狭窄をきたしている場合と、歯状線上に肛門ポリープがあるために起こる裂肛は手術が必要です。

痔瘻にしよう

痔瘻の原因と症状

痔瘻系統は、肛門周囲膿瘍と痔瘻に分かれます。この2つは別々の病気ではなく、肛門周囲膿瘍が進行して慢性期になったものを痔瘻といえます。肛門周囲膿瘍は歯状線の小さくほみから大腸菌などが入り込み、直腸と肛門の周囲が化膿したものです。症状は肛門の周りが腫れて激痛が続き38〜39度の発熱を伴う場合があります。膿瘍が切開されるか、あるいは自然に破れたりすると症状は案になります。その後直腸、肛門とつながった管が残る痔瘻となります。症状としては、常に膿の混じった分泌液が出たり、肛門周囲に湿疹や皮膚炎などができ、かゆみや不快感を伴うようになります。

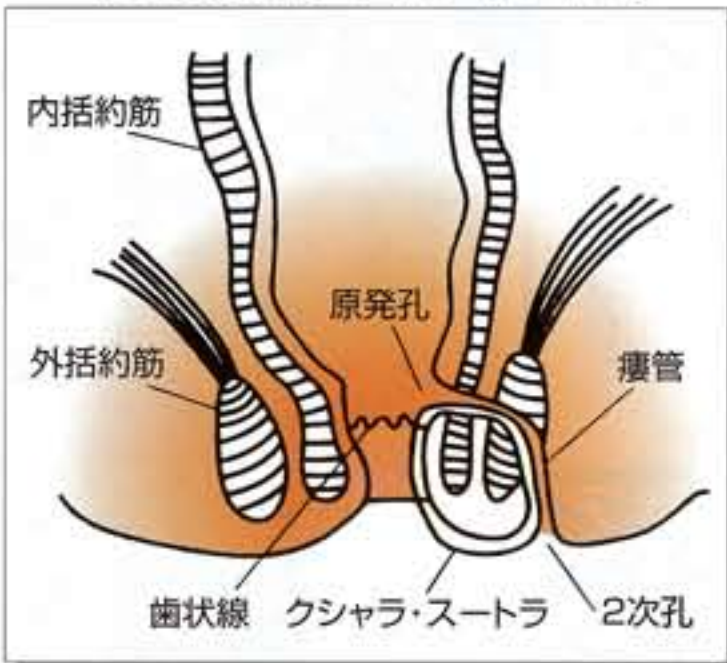


痔瘻の治療

痔瘻は薬では治りません。どうしても手術が必要で、当院ではアーユルヴェーダ医学を治療に用いています。

北日本新聞「みらい」11月号に「アーユルヴェーダ医学で治す痔瘻」を紹介しました。以下は、そこからの抜粋です。

痔瘻の治療(クシャラ・スートラ)



痔瘻は薬では治らず手術が必要です。これまでは病巣を完全に取り除く手術が主体でしたが、痔瘻の場所によって術後、肛門の変形や機能障害が残ることがありました。

当院では

1985年にスリランカの研修医がインドヤスリランカで広く痔瘻の治療に使われている薬草の成分をしみこませた木綿糸を持参してきたのがきっかけで、今回紹介する痔瘻の治療法を始めました。

これはインド伝承医学、アーユルヴェーダに記載されている薬草成分を含む「クシャラ・スートラ」という糸を使用した治療です。治療法はきわめて簡単で2次孔から原発孔に糸を通ししぼるだけで糸が徐々に組織を溶かし瘻管を肛門側に切っけていきます。1週間に1回糸の交換を必要としますが、長い時間をかけて切っていく事と糸に含まれている成分の作用で瘻管の後壁では組織の再生が起こっています。この糸にはキリンカクの樹液、ケイノコズチという草を焼いた灰を溶かした上澄み液の乾燥粉末とウコン粉末をしみ込ませてあります。キリンカクには局所刺激作用と催炎作用、ケイノコズチには腐食作用、ウコンには殺菌作用と抗炎症作用、と異なる作用が1本の糸に仕込まれているのがインド伝承医学のすごさだと思います。

これまでに当院で単純な痔瘻から複雑なものまで842症例に行ってきました。再発を5.2%

便潜血を無視しないで

急告!!

痔のある人はどうしても検便検査(潜血検査)が陽性になりがちです。いつも外来で説明していますが、「痔から出る血も癌から出る血も赤い。癌から青い血が出ればいいのですが。」痔があるからと、結果を無視しないでください。この原稿を書いている時に、2年前の秋に潜血陽性、昨年の秋も陽性だった方が、ようやく行った大腸内検査で、進行癌が発見されました。2年前に検査をしていれば早期癌だったかもしれません。潜血陽性の人に必ず病気があるとは限りませんが、無視しないでください。お願いします。

に認めましたが、単純な痔瘻ではほとんど認めません。軽度の肛門変形を17例(2%)に認めています。日常生活には支障はありませんでした。痔瘻の手術は肛門括約筋を切断するため、一番困る後遺症は肛門機能障害すなわち肛門閉鎖不全です。この方法で治療した7例(0.8%)におなかをこわしたとき(下痢)、下着を少々汚す程度の機能障害を認めましたが、その後機能障害は消失しています。西洋医学にはない、時間をかけ、治しながら瘻孔を切り開いていくアーユルヴェーダ医学5000年の歴史を感じます。